ゴート語語頭音 „ g-“
—特にドイツ語 „Gasse“「通り」の出自について—

Über gotischen Anlaut „ g-“ —besonders über die Herkunft der „Gasse“

Toin Yokohama Universität. Jura

鹿児嶋　繁雄

桐蔭横浜大学法学部

（2014 年 9 月 20 日　受理）

1．„Gasse“「通り」は、オーストリアでは通りを表す一般的なことばである。辞書 (1) では、次のように記載している。

「家々に囲まれた、とても狭い通り：「狭く、曲がりくねった、急勾配の『通り』」;「旧市街の『通り』はでこぼこで暗い」;「彼女は小さな『通り』に住んでいた」;「人里はなれた『通り』には人っ子一人見えなかった」;オーストリアではドイツ語 „Straße“ の意味に用いる。」(1)　日本語では、「通り」ではなく「裏道」や「横町、路地」にあたる。Klappenbach の記載をさらに続ける。「 „über Gassen“『持ち帰りで（飲食物）；生垣、壁、山の絶壁の間の狭い道』；この何もない道を彼は行かねばならない」（シラー：ウイリアム・テル IV 3）；両側二列の人垣の間の通路：

葬列は、男女の人垣の間を通り抜けた；/ 比喩 / 嵐は森林を引き裂いてしばしば道をつくる」（木々を折って帯状の空間ができる）；口語；„auf allen Gassen“「それはあちこちで耳にすることができる」。ここでは「道」という特定な「場所」ではなく、「不特定の場所」の意味で „Gasse“ を用いる。「/ 諺 /„Er ist Hansdampf in allen Gassen.“「彼は何でもよく知っている人だ」。これは「横町のご隠居さん」のような「知ったかぶり、おせっかいな人」というニュアンスである。「/ 雅語 /„Der Freiheit eine Gasse!“「そこをどけ！」（ダントン、ビュヒナーⅡ）」。ここで „Gasse“ は人々に対して、「人垣」のように通り道をあけろ、という要求である。

ドイツ語 „Straße“ とオーストリアのドイツ語 „Gasse“ は同じ対象を指し示している。辞書で (2) Gasse は、Straße と書いてあるだけで、両者の区別は書かれていない。ウイーンの地図を見ても „Gasse“ と „Straße“ は混在している。

「大通り」が „Straße“ で、「小道」が „Gasse“ というように使い分けはあるようだが、„Burggasse“, „Herrengasse“ のように盛り場にも „Gasse“ を使っている。

„Straße“ の語源は後期ラテン語（3 － 6 世紀）の „via strāta“「（舗装）市街道、大道」である。前半の「道」（via）ではなく後半の「舗装した」（strāta）を借用している。一方、„Gasse“ の語

Kagoshima Shigeo：Department of Law, Faculty of Law, Toin University of Yokohama, 1614 Kurogane-cho, Aoba-ku, Yokohama, Japan 225-8503

源は著者によってまったく異なった解釈があり、決定的な核になる単語は設定されていない。

2．Diefenbach, Stroh, Kluge など[3]

語源辞典で „Gasse“ を調べると、大きく 2 つの見解がある。一方は「不明」(dunkel)、他方はゴート語（380 年、以下 got. と省略）„gatwō“「大通り」とする説である。

「不明」の立場をとっているのは Mackensen,Pfeifer,Mauer,Duden で、„gatwō“ 派は、Kluge,Holthausen,Diefenbach である。

2-1.

Mackensen は索引に „Gasse“ を挙げてあるが、解説は何もない。「非印欧語由来のゲルマン語；eitel『虚栄心の強い』、heuchen『信心ぶる』、prahlen『いばる』、Gasse『横町』でこの一覧は終わる。」[4] Pfeifer は、「古北欧語（anord.）スウェーデン語（schwd.）„gata“、got. „gatwō“ を挙げている。由来は不明。（北海沿岸地方に住んでいた古代ゲルマン人の一部族）イングヴェオーン族のことばに早い時代からの借用はない（英語 gate「門、道、出入り口」は北欧語から借用されている。」[5] と、Pfeifer は、got. „gatwō“ が語源の核に至らない単語であると考えている。schwd. „gata“ も、古いゲルマン語を借用しているフィンランド語（finn.）„katu“ もともに「大通り」であって、„Gasse“ が指し示す「横町」ではない。

例文 1

got.Das Evangelium nach Lukas 14,21[6]

jah qimands sa skalks gatih fraujinseinamma þata. Þanuh þwairhs sa garawaldands qaþ du skalka seinamma:usgagg sprauto in gatwons（ギリシア語〈gr.〉πλατ΄εια ラテン語〈lat.〉platea,）jah staigos（gr.΄ρυμη , lat.via）baurgs jah unledans jah gamaidans jah blindans jah haltans attiuh hidre.

現代ドイツ語（nhd.）

Und der Knecht kam und sagte das seinem Herrn wieder. Da ward der Hausherr zornig und sprach zu seinem Knecht: Gehe schnell hinaus auf die Straße und Gassen der Stadt und führe die Armenund Krüppel und Blinden und Lahmen herein.

ルカによる福音書 14，21[7]

僕は帰って、このことを主人に報告した。すると主人は怒って、僕に言った。「急いで町の広場や路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れてきなさい。」

got. „gatwō“ は「広場」あり、gr. 本文にある „πλατ΄εια“「広くて平らな所」、lat. 訳の „ platea“ は「道路、街路；庭」で、「路地」を表す got. „staiga“ は nhd.“„Steg“「（山中・林間などの）小道；狭い板橋」である。

古高ドイツ語（ahd.）Tatian (830 − 835) では同一箇所で „strâza“ を用いている。

例文 2

Tatian[8] 125, 9

Fahret zi ûzgange uego, in strâza (lat.plateas) inti in thorph inti in burgi, ahd. との対比により、got. „ gatwo“ は nhd. „Gssse“ の直接の語源とはなりえない。その意味で Duden は「語源不明」と

述べているのであろう。
lat.,gr. の語形を真似た got. „plathja“ は、まさに「大通り」である。

例文 3
got.Das Evangelim nach Mattäus 6, 5
jah þan bidjaiþ,nisijaiþ swaswe þailiutans, unte frijond in gaqumþim jah waihstam plapljo (gr. πλατειων,lat.platearum) standandans bidjan,...
nhd.Und wennihr betet,sollt ihr nicht sein wie die Heuchler, die da gern stehen und betet in den Synagogen und an Ecke auf den Gassen,...

マタイによる福音書 6，5
祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。
nhd. の „Gasse“ という訳は、オーストリア・ドイツ語の „Gasse“ つまり „Straße“ の意味であるようだ。

2-2. ゲルマン人とラテン語の関わり
カエサル（前 102 ～前 44）『ガリア戦記』[9] には、ローマ商人に「戦争の獲物を売るスエービー族」が登場する。彼らがどの程度ラテン語を解しているかは、不明だが、ゲルマーニー人の使節は完璧にラテン語を使用することができるようだ。ただし、文面からは、ローマ側に通訳がいたかどうかは不明であるが…
「ゲルマーニー人はローマに先んじて戦争をしかけたりしないが、襲われれば武器に訴えて闘うことを遠慮はしない。挑まれれば抵抗し、慈悲を乞うたりしないのはゲルマーニー人が祖先から受け継いだ風習である。またこうも言った。国から逐われてやむなく来た。ローマが親愛を望むなら有力な友となろう。土地をよこすか、それとも武力で取ったものを認めてくれ。不滅な神々も手をやくスエービー族には譲歩するが、その他に征服できないものは地上にない。」
ゲルマン人とローマとの関係の中で、捕虜・奴隷からローマ軍の部隊員まで様々な立場でゲルマン人はラテン語と関わってきている。
「西ゴート族の主な輸出品は奴隷で、特にドナウ守備隊を指揮する士官たちによる奴隷売買は 370 年頃には相当盛んに行われたとして、テミスティオスの次の文章が引用されている。
『守備隊司令官や歩兵隊司令官は商人として、むしろ奴隷商人として、奴隷を売買する仕事に大いに専念した』。　彼らは 376 年には、ドナウ川を渡った西ゴート族の中から、家内奴隷、農業労働者、牛飼いとか妾、愛玩用少年を獲得しようとした」[10]。
『ガリア戦記』 4 巻 12 には、アクィーターニー人（Aquītanī）のピーソーが登場する。
「…なかにはアクィーターニー人の勇敢な男ピーソーもいた。高貴な生まれで、元老院から友と呼ばれていたピーソーの祖父は部族の王でもあった。」とある。ある種のゲルマン人は、ラテン語の知識を有していたと考えることができる。

2-3.
次に got. „gatwô“ が nhd. „Gasse“ の語源である、と主張する Kluge[11] は、つぎのように述べている。「„Gasse“ は、共通ゲルマン語（germ.）の新造語で、印欧語（idg.）に同系の単語はない。got. „gatwô“ は gr.πλατεια (nhd.Straße in der Stadt) の翻訳であるが、ウルフィラ（Wulfila;got. 聖書

の翻訳者）は、gr.ῥυμη を got.staiga で訳している（上記　例文１．を参照)。・・・さまざまな解釈の試みのどれ一つとして信頼に値しうるものはない。」

Kluge は、got.„gatwô“ は germ. の造語と考えている。got.„gatwô“ の前半部分 „gat-“ は、確かに nhd.„Gasse“,schwd.„gata” に直結するようにみえる。しかし後半部の „-wô“ はどんな意味・役割なのか曖昧なままだ。„gat-“ の „-t-“ が、„-ss-“ に代わるという現象は、got.„wato“ ⇒ nhd. „Wasser“「水」で説明できるが、got. „-wô“ はほんとうに無意味なのであろうか？

ローマ帝国の建造物・道路に匹敵するものをゲルマン人は 4 世紀後半までにもっていたという記録はない。ゲルマン人がそれらの建造物を見て、単語を創作したという Kluge の想定も納得すべき材料が不足している。

むしろ、ローマ人が使っている単語をゲルマン人が勝手に解釈して使っていると考えたほうがより自然なのではなかろうか。

got.„gatwô“ の音韻変化が直接繋がる単語に lat.„quantō“「(疑問) どの程度に？どれほど？（感嘆) どんなに！」がある。lat. 語頭音 „qu-“ は got.„g-“ に代わる。

〈例〉 lat.„quaestus“ ⇒ got.„gawaurki“「利得、もうけ；生業、営業；淫売して生計を立てること」。

店が多く並んだ盛り場にゲルマン人が思わず発した感嘆、「『この都には世界中のものがなんでもあるなあ』」[12]。あるいは、よく耳にし、また耳に残ることばと考えると、lat.„quantō“ が「人通りのある盛り場」という意味のことばとして got.„gatwô“ が成立したと想像すると、強ち荒唐無稽な話ではない。

nhd.„Getto“「ユダヤ人地区、ゲットー；スラム街」が、got.„gatwô“ の末裔で、語源辞書[13] が記載するイタリア語起源（ghetto）ではなく、4 世紀から存在するゲルマン語由来のことばで「盛り場」と措定すると、あるイメージが湧いてくる。[14] このように考えると、nhd.„Getto“ はイタリア発祥のイタリア語ではなく、476 年ローマを占領した西ゴート人のことばをイタリア語が借用したのではないか。

nhd.„Getto“ は、通りで区切られた街区で、町のある部分を表している。got.„gatwô“ の „ga-“ が本来 lat.„qua-“ ではなく „com-,cum-“「…と一緒に、ある人の保護の下に」という意味と間違って解釈されたのではないか。

〈例〉 lat.„ commilito“ —got.„ gahlaiba“「戦友」

その結果として got.„gatwô“ の „ga－.“ を落とした „twô“ から現代英語（ne.）の „town“「町」ができたのではなかろうか。語源辞書[15] の掲げる got.„ *tūnaz “という単語は文献には存在しない。古英語 (oe.) „ tūn“「囲い」を引き出すための単なる想定形にすぎない。そもそも「町」の語源に「囲い」というのどかなことばを宛てるのは疑問が残る。圧倒的な土木の技量でヨーロッパの街の原型を作ったローマとの関わりを探るべきであろう。

got.„gatwô“ は „Gasse “そのものの語源ではなく、「盛り場」の意味であろう。一方 „Gasse “に対応するもう一つの単語 got.„fauradauri“ は「広場」である。

got.DasEvangelium nach Lukas10,10

iþ in þoei baurge inngagaiþ jah ni andnimaina: izwis, sgaggandans ana frauradaurja (gr. πλατειας,lat.platea) izos qiþaiþ:

nhd.Wenn ihr aber in eine Stadt kommt, in der sie euch nicht aufnehmen, so geht heraus auf ihre Gassen und sprecht:

ルカによる福音書 10，10
しかし、町に入っても、迎え入れられなければ、広場に出てこう言いなさい。
上記 nhd.„ihre Gassen“ は直訳すると、「その町の人の道々」で、「所有代名詞＋複数」はある広がりをもった空間を表している。

3． „Gasse “ の源

lat.で「道」を表すことばに、„callis“ がある。「１.小径、山道　２.牧場道路　３.山上の牧場」の意味で、現代スペイン語（esp.）の „calle“「１．街路、通り、‥通り２.通りの住民　３.（道路の）車線、レーン、（プール・競技場の）コース、トラック」は nhd. „Gasse“ の意味で使う。„vía“ は、„vía romana“「ローマ街道」、„ La Grand Vía “「（マドリードにある）目抜き通り、グランビア」のように固有名詞として用い、„calle“ は一般に「道」を表す。

この lat. „callis“ と形態的に関わりがありそうな got. の単語に „kalkjo“ がある。音変化として lat. 語頭音 „c − “ は got. „g − “ に代わる。

lat.	captura	communis	comparticeps	conservus	crux
got.	gafah	gamainns	gadaila	gaskalki	galga
意味	捕獲	共有の	仲間	連れの奴隷	十字架

got.„kalkjo“ の意味は「娼婦」である。
got.Das Evangelium nach Lukas15,30
iþ þansa sunus þeins,saei fret þein swes miþ kalkjom(gr.πορνών,lat.meretricibus),qam,ufsnaist imma stiur þana alidan.

nhd.Nun aber ieser dein Sohngekommen ist, der dein Gut mit Dirnen verpraßt hat, hast du ihm gemästete Klab geschlachtet.

ルカによる福音書 15、30
ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。

「娼婦」と「道」と一見かけ離れた事物をさしているが、got.„kalkjo“ が、lat. „callis“ の隠語であると仮定すると、この二つの単語の関係は、見当違いとは言えない。

アナクレオン（Ανακρεων 前 478；テオース島生まれのギリシア詩人）は、当時の下級娼婦の実体を述べている。(16)

「饗宴において『笛吹女』(αυλετιδες) は最初、客を演奏で楽しませ、その後、性的な楽しみを与えた。もちろんこれらの『笛吹女』は著名な「教養ある遊女」(Hetär) ではなかった。少女たちは普通の娼婦であって、一般的にはピレウスの港で客を探していた。『笛吹女』のための学校さえあったが—もちろん少女たちはたいてい楽器を上手に吹くことは出来なかったであろう—少女たちは最下等の街娼であった。

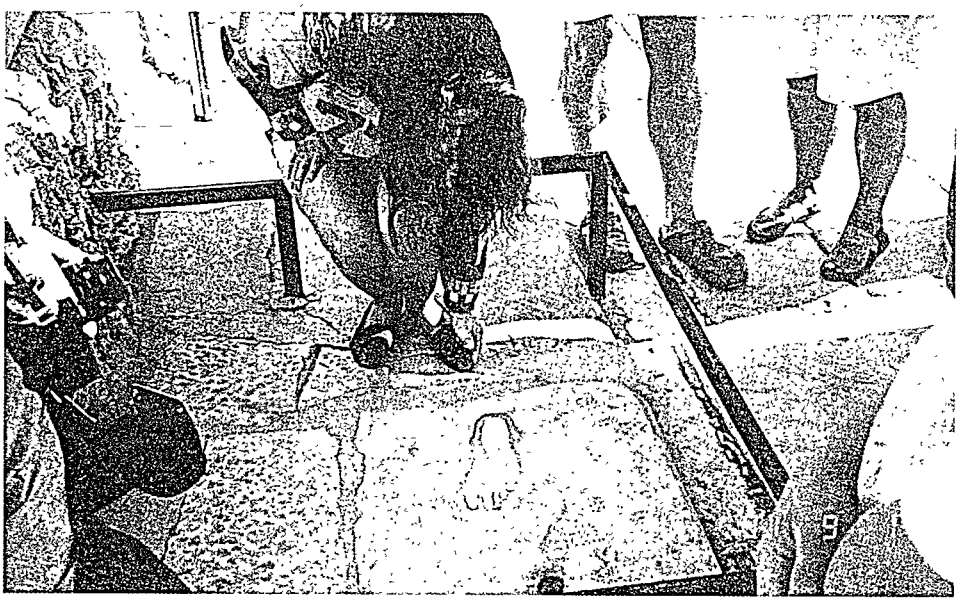
前 4 世紀以来 αυλετιδες は、すでに「安い娼婦」とほとんど同義語であった。

少女たちが要求できる最高額は、法律で規制されていて、2 ドラクマであった。許された 2 ドラクマ以上を支払った男たちが、訴えられ、有罪の判決を受けたと伝えられている。文献から知られているように、特定の『フルートを吹く少女』をめぐってしばしば男たちの間で争いが起こった。一人の少女をめぐって複数の男が求める場合、くじ引きで決めた。女性には決定に参与する権利はなかった。だから、詩人アナクレオンが、そのような娼婦を「公共の道」とか「貯水槽（体液を溜める）」と名付けたことは、驚くにはあたらない。

隠語としての got.„kalkjo“ に関して、盛り場の路上にある足形からも、「道路」と「娼婦」の関連を窺い知ることができるのである。

足形の小指の方角は、娼館、娼婦のいることを示している。

「娼婦」の隠語としての lat. „callis“ が時とともに廃れたように、got.„kalkjo(kalki)“ の「娼婦」の



エフェソスの遺跡にて（著者撮影）

意味は消滅した。

got.„kalkjo(kalki)“ が「娼婦」を意味することばとして使われたもう一つの可能性。それは lat. „calx“ だ。

lat. „calx“「踵」のことを got„kalkjo(kalki)“ が再現していると考えると、got„kalkjo“ は、lat„calx“ の主な意味「石灰、石灰石」を意味する nhd. „Kalk “「石灰」に繋がってくる。ただし「石灰」と「娼婦」との関係は不明。足形を誤って lat„calx“ と同定したのであろうか。

nhd.„Gasse“ は lat. „callis“ の本来の意味「道」からが派生したのではなかろうか。got. の lat. からの借用はかなり大雑把で、語中音・語末音を飛ばす傾向がある。[17]

〈例〉

lat.	moneta「貨幣」	vagina 「鞘・膣」
got.	mota 「収税所」	waggs 「楽園」

„Gasse“ の場合も、lat. „callis“ の語中音 „-ll-“ を飛ばし、„ca_is”、„ca_is” の „c-” を „g-” に代えると、„gais“ となり、アングロ・サクソン（angl.）„gæt=gatu“「通り」[18] を経て、古高ドイツ語（ahd.）„gazza“ に至る。

注

（1）Klappenbach,R.:Wörterbuch der deutschen Gegenwartsprache S.1456(Berlin,1981)
Von Häusern eingefaßte,sehr schmale Straße: eine enge,winklige,krumme,steile G.;die Gassen der Altstadt sind holprig und finster; sie wohnte in einer kleinen G.;auf der abgelegenen G. war kein Mensch zu sehen;Österr.Straße : Speisen und Getränke auch über die G.;schmaler Weg zwischen Zäumen,Mauern, Bergwänden: Durch diese hohle Gasse muß er kommen Schiller Tell IV 3; Durchgang durch ein von Menschen gebildetes Spalier: der Trauerzugdurchschritt die G. der Männer und Frauen;/ übertragen/ der Sturm reißt oft Gassen in den Waldbestand(knickt die Bäume, so daß ein freier Streifen entsteht); umg.das kann man auf allen Gassen(überall) hören;/sprichw./ er ist Hansdampf in allen Gassen(kennt sic überall aus); geh.Der Freiheit eine Gasse! Büchner *Danton II*

（2）Wintersberger,A.: Wörterbuch Östereichisch-Deutsch (Wien 1995)

（3）Mackensen,L.:Deutsche Etymologie S.52(Birsfelden-Basel,1977)
Pfeifer,W.: Etymologisches Wörterbuch des Deutschen S.506-507(Berlin,1989)
Mauer F.:Deutsche Wortgeschichte S.63 (Berlin 1943)
Duden:Das Herkunftswörterbuch S.250 (Mannheim,2001)
Kluge F.:Etymologisches Wörterbuch der deutschen SpracheS.234 (Berlin1975)
Holthausen,F.:Gotisches etymologisches Wöterbuch S.55 (Hidelberg 1934)
Diefenbach L.:Vergleichendes Wörterbuch der gotischen Sprache S.394,S.439(Schaan-Liechtenstein 1851)

（4）Mackensen:ibid germanische Wörter nicht indogermanischer Herkunft:eitel,heuchen,prahlen,Gasse runden diese Liste ab.

（5）Pfeifer,W.:ibid.: anord. schwd. „gata“ got. „gatwō“.Herkunft unbekannt.Aus den ingwönischen Sprachen sind Entlehnungen aus früher Zeit nicht überliefert(engl.gate „Tor,Weg,Zugang“ ist aus den nord.Sprachen entlehnt).

（6）Streitberg W.:Die gotische Bibel (Heidelberg 1971)

（7）聖書　新共同訳（東京 1994）

（8）Sievers E.: Tatian (Paderborn1966)

（9）『ガリア戦記』（東京 1991）第 4 巻 2、第 4 巻 7

（10）長友栄三郎『ゲルマンとローマ』p.57-58（東京 1976）
φρουράρχας δέ καί ταξιάρχας έμπόροθς μάλλον καί τών άνδραπόδων καπήλους, οΐς μόνον έργου προσέκειτο πλείστα δέ καί άπεμπολήσαι. Themistius,Oratio,X 136B

（11）Kluge:ibid. S.234 gemeingerm.Neubildung ohne idg.Verwandte. Got.gatwō übersetzt gr.πλατεια „Straße in einer Stadt“,während Wulfila gr.ρυμε „schmaler Weg“ mit staiga f. wiedergibt. Kluge:ibid. S.234 gemeingerm.Neubildung ohne idg.Verwandte. Got.gatwō übersetzt gr.πλατεια „Straße in einer Stadt“,während Wulfila gr.ρυμε „schmaler Weg“ mit staiga f. wiedergibt.・・・Von den vielen Deutungsversuchen kann keiner Glaubwürdigkeit benspruchen.

（12）オウィデイウス『アルス・アマトリア』p.10（東京 2008）

（13）Duden:ibid.S.274

（14）最盛期のユダヤ人の人口は、ティベリス川右岸（Tiberis, 現在の Tevere）で最高 10％に達した。Zu dieser Zeit entsatand das jüdische Viertel in Rom am rechten Ufer des Tibers,und der jüdische Bevölkeungsanteil erreichte mit 10 Prozent der Gesamtbevölkerung einen Höhepunkt (Juden in Rom:http://de.wikipedia.org/wiki/Juden_in_Rom)

(15) Onions,C.T. : The Oxford dictionary of English etymology p.934 (Oxford 1996)

(16) Prostituierte im Antik(de.wikipedia.org/wiki/Prostitution_in_der_Antike): Beim Symposion unterhielten sie(Flötenmädchen) zunächst die Gäste mit ihrer Musik, später mit sexuellen Gefälligkeiten.Allerdings waren diese Flötenmdchen keineder angesehenenHetären.Sie waren normale Prostituierte,die im Allgemeinen im Hafen Piräus ihre Kunden suchten.Obwohl es sogar Schulen für Flötenmädchengab – allerdings sollen sie die Kunstdes Flötenspiels meist weiniger gut beherrscht haben–gehörten sie zu den niedersten Prostituierten der Stadt. Seit dem 4. Jahrhundert v.Chr. wurde die Beziehung αυλετιδες(auletides) schon fast zum Synonym für „billige Prostituierte".Der Höchstpreis, den sie verlangen konnten, wr gesetzlich geregelt und betrug zwei Drachmen. Es ist überliefert, dass Männer, die mehr als die erlaubten zwei Drachmen zahlten, angezeigt und verurteilt worden sind. Häufig gab es bei Symposien zwischen Männern Kämpfe um bestimmte Flötenmädchen, wie aus der Literatur bekannt ist. Im Allgemeinen einigte man sich jedoch durch einen Losentcheid, wenn mehrere Männer Anspruch auf ein Mädchen erhoben.Die Frauselbst hatte kein Mitspracherecht.So verwundert es nicht, dass der Dichter Anakreon solche Prostituierte als„öffentlichen Duchgang" oder gar „Zistene"(zur Aufnahme von Körperflüssigkeiten) bezeichnete.

(17) 鹿児嶋　繁雄 :「ゲルマン語における話法の助動詞について」桐蔭論叢 27 号　p.55

(18) J.R.Clark Hall: A Concise Anglo-Saxon Dictionary(Cambridge 1894)